

環境報告書 2010



1. ごあいさつ	2
2. 会社概要	3
3. 編集方針	3
4. 環境基本方針	4
5. 環境中期計画	5
【達成目標年度：2012年度】	5
6. 環境保全活動の経過	6
【環境保全活動の歩み】	7
7. 環境・安全管理体制	9
8. 環境負荷の全体像	10
【事業活動における環境負荷】 * 2009年度実績	10
9. 環境負荷低減への取組	11
【P R T R 対象物質への取り組み】	11
【大気汚染防止への取組】	11
【水質汚濁防止への取組】	13
【二酸化炭素排出量削減への取組】	13
【産業廃棄物削減への取組】	14
10. 環境保全のための製品	16
遮熱膜材料クールマックス®シリーズ使用実例	16
① C種膜材料「エバーマックス®EXクール」	16
② テント倉庫膜材料「ウルトラマックス®クール」	17
③ クールマックス®シリーズの省エネ効果のシミュレーション	18

1. ごあいさつ

平素は格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。

業界を取り組む環境は依然厳しい物があり、一応に言われます通り、国内景気はまだ残念ながらリーマンショック以前の状況まで回復していないというのが実態ではないでしょうか。

世界経済も、新興国の急成長の流れに便乗したことで輸出を中心とした業種、業界は踊り場を抜けて成長軌道に入ったという話も聞かれ、益々時代はグローバル化となり国を超えてM&A、提携等の話題が事を欠かない出来事となっており日本の空洞化や技術の流出に拍車をかける状況になっております。またEPA（経済連携協定）やTPP（環太平洋経済連携協定）に対しても日本含め各国も一層門戸を開いていかなければ世界に取り残される状況であることは明確です。

資源のない国である日本は、【技術と経験】で今後も果敢に世界に対応してゆく必要があります。そんな中で環境対策は地球規模の課題であります。各国で世界に認められる対策を採り続けていかなければいけないのは当然のことであり、技術立国である日本は率先して実行していく必要があります。

弊社といたしましても、国際社会に貢献する企業として環境問題には継続して取り組んでまいります。弊社の取組状況について報告させていただき、業界の皆様方の環境ビジネスにお役に立てば幸甚でございます。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 平岡 義次

2. 会社概要

名 称	平岡織染株式会社
社 長	平岡義次
資本金	払込資本 48,438千円 自己資本 4,473,000千円
創 業	明治35年8月(1902年)
会社設立	昭和10年2月
本 社	東京
支 店	大阪
事業所	草加(埼玉県)、滋賀(滋賀県)

3. 編集方針

【報告書の対象期間】

対象期間 2009年4月1日～2010年3月31日

【報告書の対象範囲】

本社、支店、2事業所(草加、滋賀)

4. 環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。

機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、環境の保全を目的として、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する法規制及び、地方自治体との協定を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。特に、工場排気、排水、土壤に留意し、質の維持管理・向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 全社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社を含む全従業員に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。

2009年8月1日

5. 環境中期計画

弊社では、2001年度に生産部門に環境方針を定め、環境マニュアルを発行したのを起点に、環境保全型の企業活動を本格的にスタートさせました。2002年度には、草加事業所が埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、第一次の中期計画を策定。二酸化炭素総排出量削減と産業廃棄物原単位排出量削減の二つのテーマについて、2001年度の実績データを基準として、達成目標年度を2006年度と定め、具体的な目標を掲げ改善に取り組み、目標を達成しました。

更に環境に配慮した企業経営を充実させるため、2007年6月に第二次の中期計画を策定。2006年度の実績データを基準として、次の三つの具体的な改善目標を掲げました。達成目標年度は、2012年度です。

【達成目標年度：2012年度】

二酸化炭素総排出量	：	3%削減
産業廃棄物原単位排出量	：	5%削減
コピー用紙使用量	：	10%削減

6. 環境保全活動の経過

弊社では、古くから綿をはじめとした天然繊維への染色加工や、合成繊維への樹脂加工を手掛けてきましたので、大気汚染防止法や水質汚濁防止法といった公害規制にも企業活動の一環として、前向きに対応して参りました。

2001年度には、生産本部環境方針を定め、環境マニュアルを発行。2002年度には、滋賀ターポリン*工場が「大気環境負荷低減計画実施事業場」として、滋賀県から公表。同年度に、草加事業所も「彩の国エコアップ宣言」（環境負荷低減計画作成）対象事業所として、埼玉県から公表されたことにもない、環境負荷の低減目標と、具体的な取組内容を公に示しました。

これにより、企業の社会的責任（CSR）の考え方に立った企業活動への第一歩を踏み出すこととなりました。

*ターポリンは以下（タ）に省略して記載する。

....

【環境保全活動の歩み】

1999.08	草加事業所に「エネルギー削減委員会」設置（～2003.04まで、2003.05からは、「CO ₂ 削減委員会」に改称し、2007.03まで活動を継続）
2000.05	草加事業所に「産業廃棄物削減委員会」設置（～2006.03まで活動）
2001.01	草加事業所に「P R T R・V O C対策検討報告会」設置（～2007.11まで、2007.12からは、「環境対策会議」に改称し、環境全般に関わる改善活動を継続中）
2001.04	生産本部環境方針を制定、環境マニュアルを発行
2002.04	滋賀（タ）工場に「省エネ委員会」設置（～2008.03まで活動）
2002.12	滋賀（タ）工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション（550kW）を導入設置、稼働開始 ※CO ₂ 排出量の削減に貢献
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置（150m ³ /分）を導入設置、稼働開始 ※VOC大気放出量の大幅削減に貢献
2009.03	滋賀（タ）工場にCO ₂ 排出量の削減のため、新熱処理機を設置
2009.04	全社一丸となった環境への取組を強化するため、「環境連絡会議」を設置
2009.10	内部環境監査（環境マネジメントシステム）の運用開始

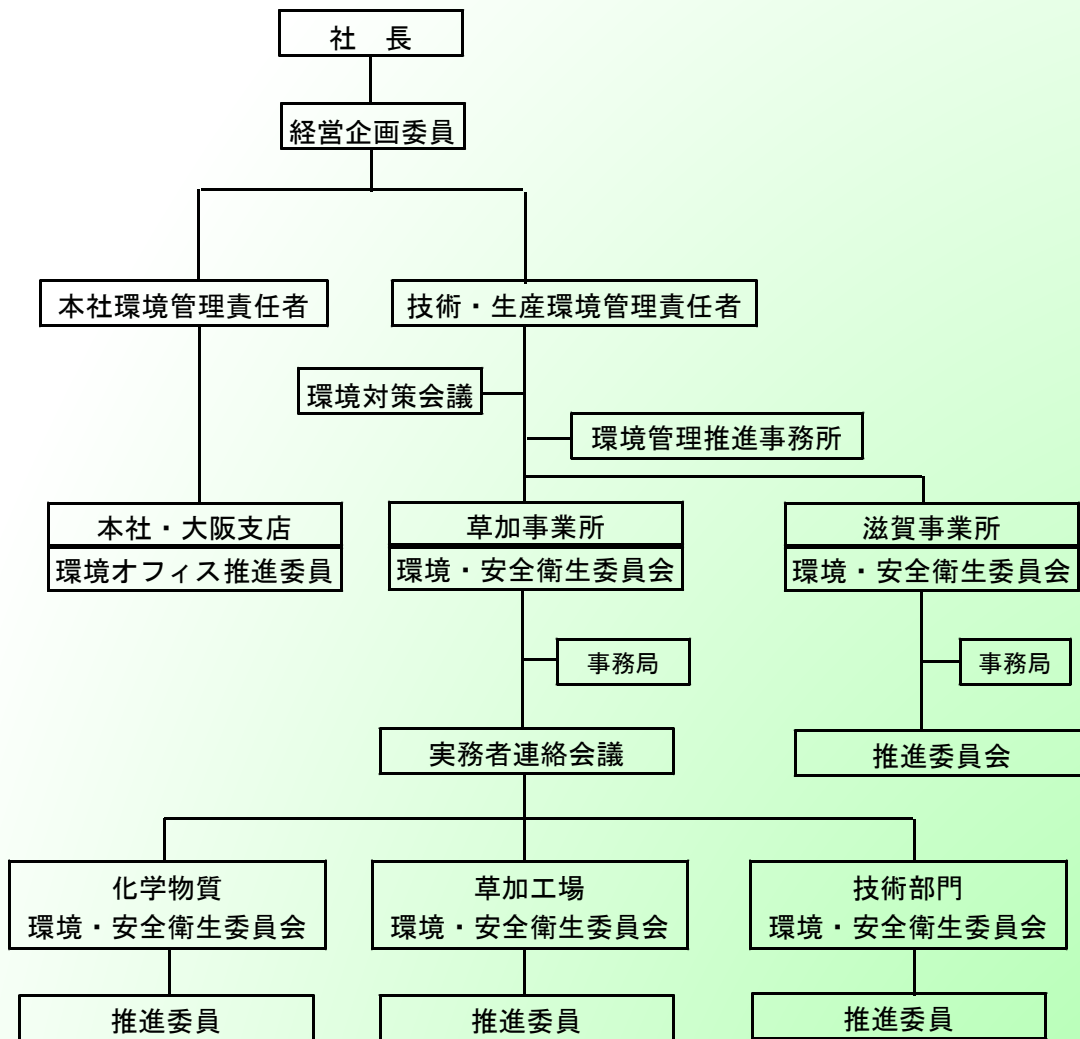


ガスコージェネレーション



蓄熱式排ガス浄化装置

7. 環境・安全管理体制

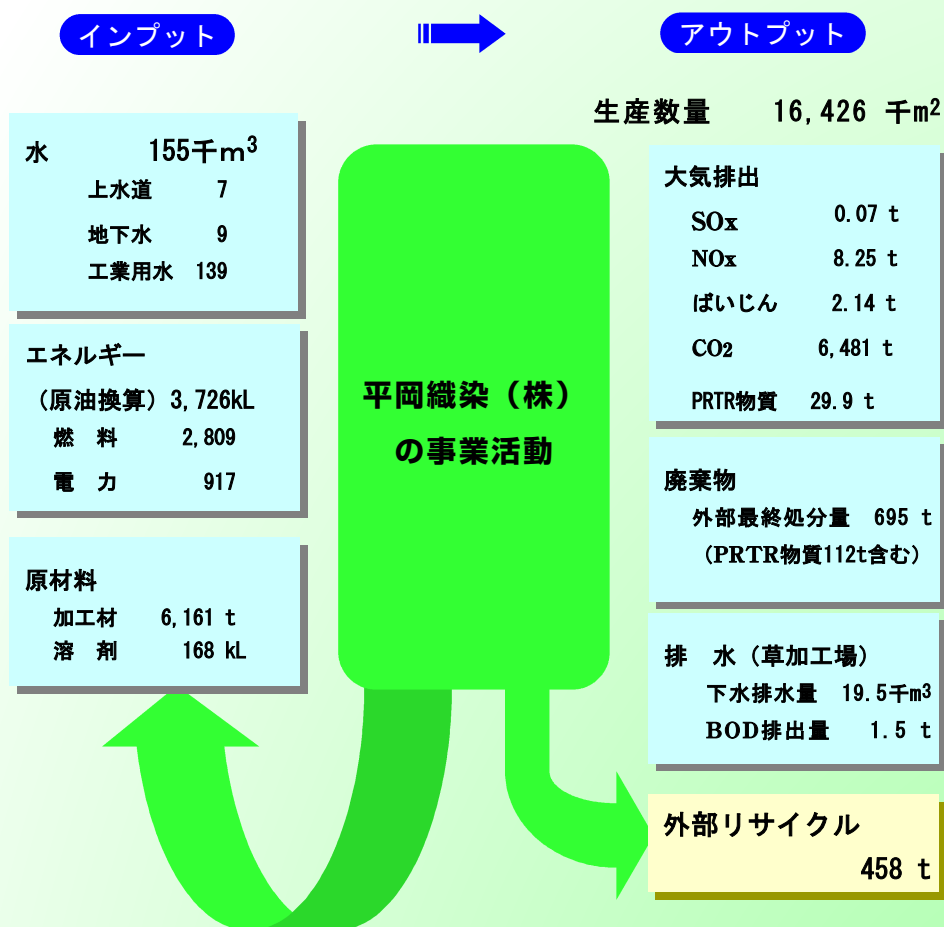


8. 環境負荷の全体像

【事業活動における環境負荷】 * 2009年度実績

弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2009年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



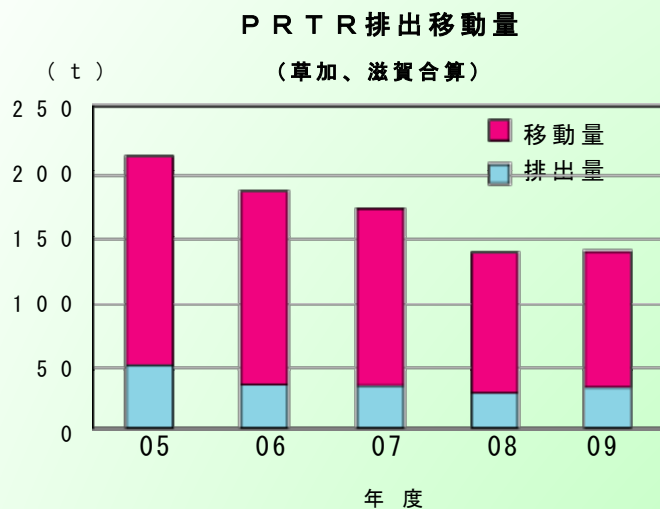
生産量は前年比で横ばいであり、インプット量・アウトプット量とも前年並みとなっています。今後は生産量が増加してもこの環境負荷水準を維持、或いは低減出来るよう、さらなる努力を続けて参ります。

9. 環境負荷低減への取組

【PRTR対象物質への取組み】

PRTR対象全廃物質・・・6物質

労働安全衛生法及びPRTR法に関する法令等で対象となった化学物質の使用量を管理し、削減を進めています。PRTR法施行後、2008年度までに6物質を全廃しました。



【大気汚染防止への取組】

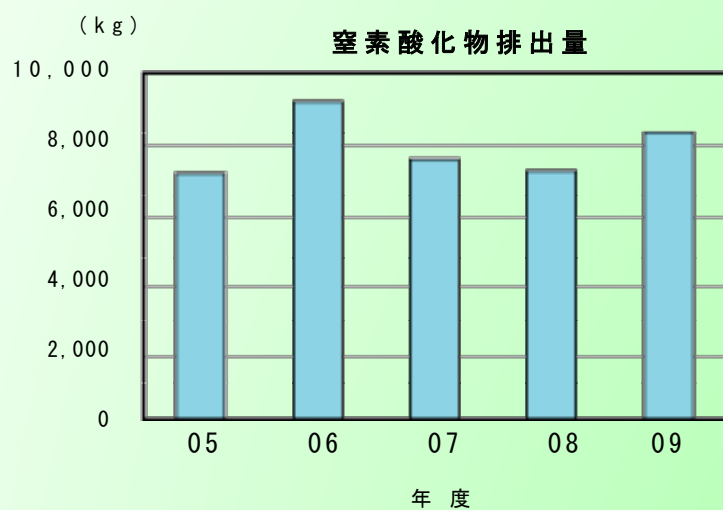
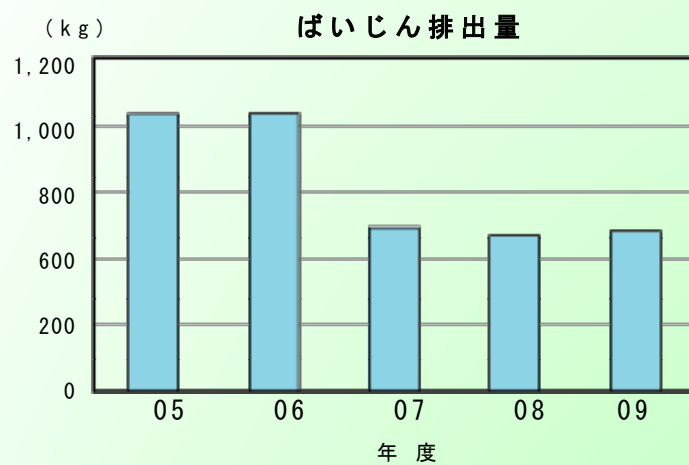
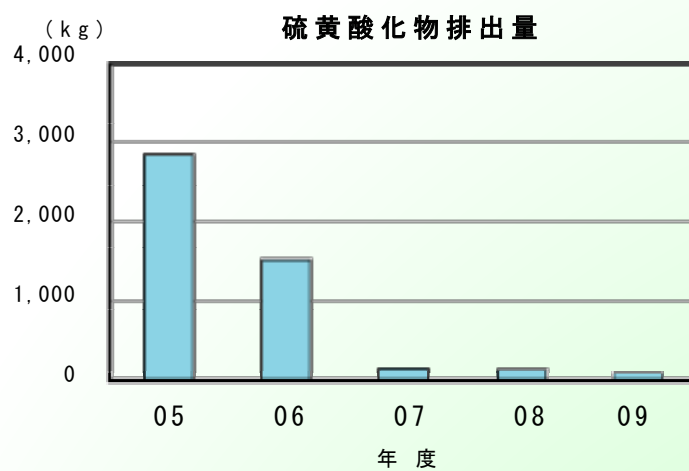
2009年度のSO_x（硫黄酸化物）の排出量は、ボイラ燃料をA重油から環境の負荷が小さい天然ガスへの転換を進めた結果、2005年度を基準として98%減の0.07tとなっています。特に滋賀（夕）工場は2009年度からボイラ燃料の完全ガス化により、SO_x排出量がゼロになりました。

NO_x（窒素酸化物）の排出量は、燃料転換による削減効果が得られないため、ほぼ横ばいで推移しています。

2007年度のばいじん排出量は、2005年度を基準として34%減の0.69tでした。これも、燃料転換による効果です。

今後も可能な限り燃料転換によるSO_xおよびばいじんの排出量削

減を進め、大気汚染防止に努めて参ります。



【水質汚濁防止への取組】

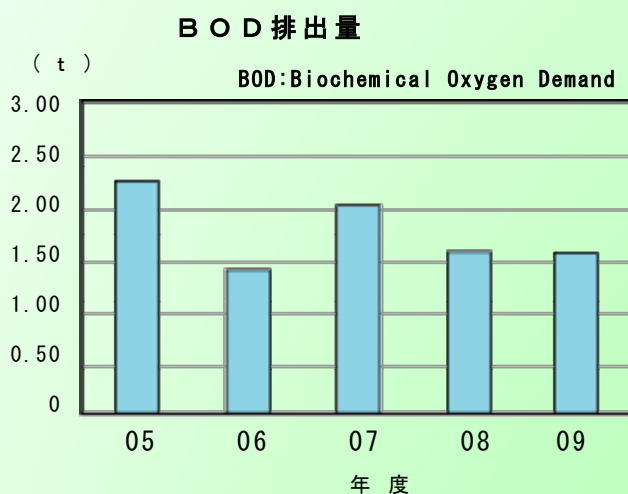
二工場のうち、工場排水を行っているのは、染色を行っている草加工場のみです。工場排水を行っていない滋賀（夕）工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加工場のみ水質汚濁防止への取り組みを行っております。

排水が発生するのは主に染色工程で、長年にわたり、加圧凝集浮上方式による施設で処理し、公共下水道へ流しています。近年では染色工程を含む製品の減少で年間排水量も2万 m³ 前後と低位安定しています。

2009年度のBOD排出量は、前年度比5%減の1.5 tでした。

水質汚濁防止については、草加市下水道条例で定める下水排除基準に常に適合するよう、同基準より更に厳しい社内基準を設け、細心の注意を払いながら水質管理に努めています。

引き続き、排水量の削減が計られるよう発生源の管理強化と、水質社内基準の遵守に努めて参ります。



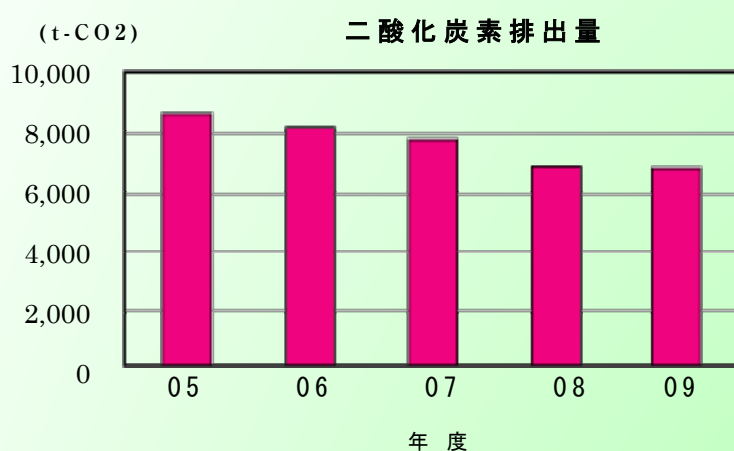
【二酸化炭素排出量削減への取組】

2002年度に草加事業所が埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、CO₂排出量・エネルギー使用量・エネルギー原単位のデータを正確に把握し、CO₂削減と省エネ推進に精力

的に取り組み、自主目標を達成してきました。具体的には、大気汚染防止の取り組みとラップしたガスコージェネレーションの導入とボイラ燃料転換、更には遠赤外線加熱の電気から天然ガスへのエネルギー転換、乾燥炉の排熱ロスの削減などに積極的に取り組んだことが成果に結びついたと考えています。

2009年度のCO₂排出量は、生産量と比例し、前年度比1.3%減の6481t-CO₂でした。逆に原単位（生産量当たり）では、前年度比0.7%の微増で生産効率低下の影響を受けた結果となりました。また、環境中期計画で目標とした、「2012年度までに2006年度比3%削減」に対しては、生産量減少の影響が大きく2007年度以降達成しており、2009年度は2006年度比で17.6%削減となっています。

現在は原単位排出量の削減に基軸を移しており、更なる生産効率向上と省エネ活動の推進に取り組んで参ります。



【産業廃棄物削減への取組】

埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、産廃処分量・原単位処分量・リサイクル量のデータを正確に把握し、原単位処分量削減とリサイクル率の向上に精力的に取り組んできました。

2009年度の産廃処分量は、前年比9%減の695tでした。

一方、原単位処分量は、ロスの削減などに取り組んだ結果、前年比

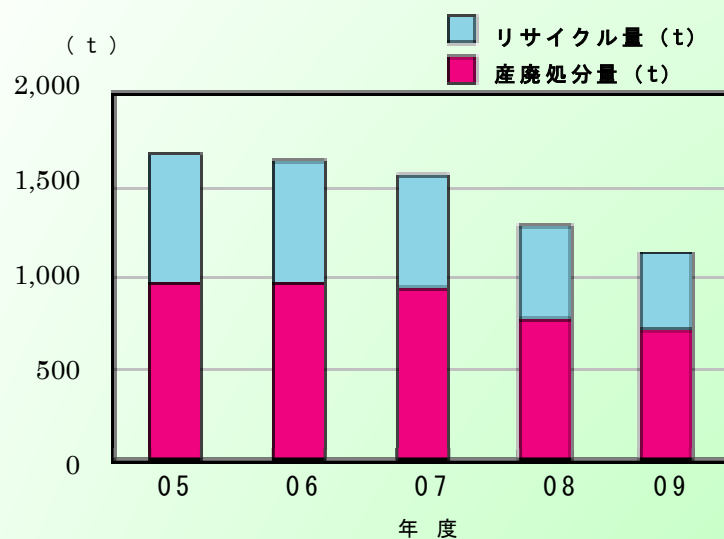
7. 2%減の42.3 kg/千m²と改善傾向が見られ、環境中期計画で基準年とした2006年度比では6%減少し、目標の5%削減を達成しました。

尚、外部委託のリサイクル率については、ここ数年40%で安定しています。

さらに原単位処分量の削減のため、原材料と製品の社内外のリサイクル率向上に取り組んで参ります。

産業廃棄物量

(草加、滋賀合算)



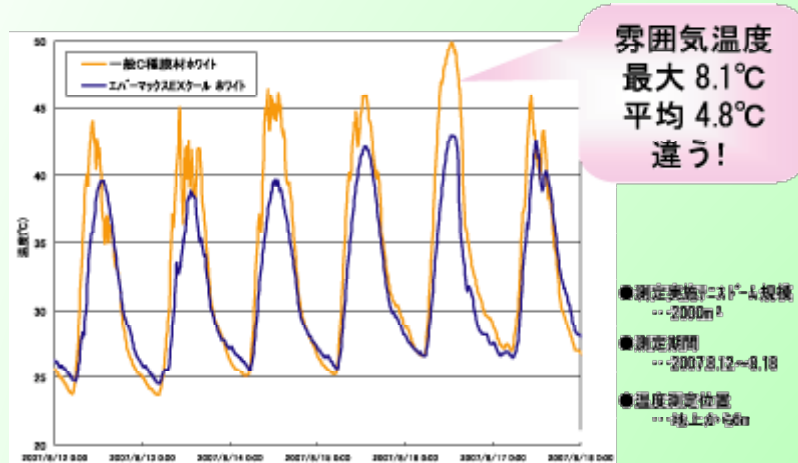
10. 環境保全のための製品

遮熱膜材料クールマックス®シリーズ使用実例

①C種膜材料「エバーマックス®EXクール」



内部雰囲気温度測定結果



③クールマックス®シリーズの省エネ効果のシミュレーション



色 相	ウルトラマックス® 〈テント倉庫用膜材〉						エバーマックス® EX 〈180kg クラス C 腫膜材〉	
	アイボリー		グレー		シルバー		ホワイト	
タイプ	通常	クール	通常	クール	通常	クール	通常	クール
消費電力 [kw・h/夏場 4ヶ月]	1.8x10 ⁵	1.2x10⁵	6.7x10 ⁵	4.8x10⁵	7.0x10 ⁵	4.4x10⁵	2.3x10 ⁵	1.7x10⁵
消費電力削減率 (%)	32.2		27.6		36.4		24.1	
電力コスト [万円/夏場 4ヶ月]	228	155	868	628	904	575	299	227
コスト節約 [万円/夏場 4ヶ月]	73.5		239.2		328.7		71.9	

【シミュレーション条件】

- ・屋根・・・面積500m²
- ・床・・・普通コンクリート、厚さ150mm、500m²
- ・地域・気象条件・・・東京の気象データを基に計算しています。
- ・比較条件・・・建物の屋根及び側面に膜材料(通常品・遮熱品)を使用したことを想定。
- ・エアコン設定温度・・・28℃
- ・エアコン使用期間・・・6月～9月(夏場4ヶ月間)
- ・エアコン使用时间・・・8時～17時(9時間/1日)

【計算条件】

- ・消費電力の単価は1kW/h当たり13円として電気量料金のみ(基本料金は除く)を計算しました。
- ・消費電力は $\frac{1}{\text{COP}}$ -消費効率(COP)を3として計算しました。
- ・CO₂排出量は0.425kg/KWhとして算出しました。
- ・本シミュレーションは、標準気象データと、熱負荷計算プログラムLESCOMを使用して計算を実施。